

骨格をどのように使っているか想像しよう
～東京大学総合研究博物館 インターメディアテクに行こうシリーズ③～

鳥類は進化の過程で重い歯を捨て去った生物であるため、食性とくちばしの形には密接な関係があるのだよ。



右手側の奥の方に進もう

インターメディアテク

2 階 F地点

鳥類頭骨コレクション



1 どんなくちばしの形がどんな使い方を生み出したのだろうか

肉を引き裂く、滑りやすい魚をくわえる、種子を割る、泥の中から小動物をつまみあげるなど、様々に特殊化した鳥の生態が、その鳥に特有なくちばしの「形」を生み出しています。どのくちばしがどんな使い方を生み出したのか考えよう。



くちばしの形



シギ、ヘラサギ、ノガシ、シチメンチョウ、コンドル、フラミンゴなど、特徴的なくちばしの形に注目してみよう。

インターメディアテク

2 階 G地点

サルの進化



2 サルの骨格はどういうところが形として変化したか



右側からニホンザル、クイロリーフモンキー、クロザル、オラウータン、ヒトの全身骨格が展示されています。サルの仲間の骨格はどういうところが形として変化したか見つけよう。



ヒトもサルの仲間だということが、骨格を観察するとよくわかりますね。

全身骨格の中の同じ部位に着目し比較して観察すると見つけやすいですよ。



後ろ側に進もう



3

コウモリの前肢をスケッチしよう



コウモリは哺乳類ですが、飛ぶためのからだのつくりが前肢にあります。どのような骨格のつくりになっているのかスケッチして特徴を見つけよう。



鳥類ではなく哺乳類でありながら飛翔するからだのつくりを獲得したコウモリには、飛翔することでどのような利点があったのだろう。

モモンガも高い木から落下しながら飛翔します。モモンガの前肢の骨格と比較するのも面白いですよ。モモンガの骨格はC地点にあります。



骨格のつくりと働きにはどのような関係があるのだろう



感じたこと

わかったこと

考えたこと



新たな疑問

もっと知りたくなったこと

年

組

番

氏名